

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	44	大学等名	愛媛大学
テーマ	テーマⅢ（高大接続）		

【総括評価】

S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・事業の3つの重点事項、①パイオニア・アドバンスト・プレイスメントのプログラムの創設と二重（デュアル）単位の付与、②「課題研究」評価に係るルーブリックの開発、③高大で一貫して汎用的能力を育てるe-ラーニング教材「日本語リテラシー」「化学」「プレゼンテーションスキル」の開発・運用が着実に進展している。また、社会共創学部では、全学共通のGPAとは別に、卒業時に一定以上の学力を修得したことの指標として独自のGPAを導入し、卒業要件の一つとしていることは評価できる。
- ・学内の実施体制は適切に整備されている。高大接続推進室を設置し、その下に高大接続推進委員会、更にその下に高校教員も参画する3つのワーキンググループを設けている。また、教育コーディネーター制度を活用したFDも実施されており、自己点検・評価委員会、外部評価委員会を設置して評価を受けている。さらに、学生・高校教員・大学教員へのアンケート調査やヒアリングなど、エビデンスに基づいたPDCAサイクルが機能していることは評価できる。
- ・事業の成果を学会等において積極的に発表している。また、パイオニア・アドバンスト・プレイスメントプログラムに関連した四国地区4国立大学への協力要請、スーパーサイエンス特別コースにおいてルーブリックを入学願書提出書類の一つとして提出可としたこと、専門人材（高大接続推進室配置の特定教員）も引き続き雇用の予定であること、高大接続科目等履修生の受入れにあたっては、新たな料金設定を行い、安価な費用を徴収する予定であることから、事業の継続性が見込まれることは評価できる。
- ・選定時に付された留意事項への対応として、日本語検定試験料を受験者本人負担としたこと、また、フォローアップ報告書への対応として四国地区5国立大学で連携して「課題研究」の実施報告書の様式を作成し、高知大学医学部医学科AO入試において、その参考資料にルーブリックを含めて提出が可能となったことは評価できる。今後、「課題研究」の成果が他大学の特色入試に生かされることが期待される。